

多様な担い手の確保による柿の産地づくり

要約

- 生産者の高齢化と園地の老木化が進む御所市の柿産地において、維持すべき園地の整理と補植改植による生産性の向上への取組を実施。
- 関係機関の連携体制づくり、講習会・個別指導の実施により、柿生産に参画する多様な担い手の産地への定着。

現状(背景)と課題

- JA ならけん葛城支店柿部会 27 名、12ha
- 担い手の高齢化や柿園地の老木化が進み、樹の生産性や生産者の生産意欲が低下
- 維持すべき園地の整理および補植改植による生産性の向上が必要
- 産地維持のため、後継者、新規参入者、防除オペレーター、作業補助員等の多様な担い手の受入体制の整備が必要

目標 (R8)

- 園地利用計画（樹園地マップ）の作成
- 改植面積 150a
- 多様な担い手の受入体制整備
新規部会員 3名

活動内容

- 「次の世代に残すべき園地」、「維持の難しい園地」を判断するため、御所市内の全柿園地について利便性、作業性、収量性等の指標により園地評価を実施（現地調査5回）
- 園地の生産性改善のため、「補植改植」を推進。園地巡回や改植コスト低減のための柿部会による自家苗生産を指導（6回）
- 多様な担い手の受入体制について、JA、柿部会、御所市と連携し、打合せ会議を開催（3回）
- 柿産地の新たな担い手となり得る人材について、講習会や個別指導を実施（7回）

成果

- 2カ年（R6～R7）の調査により全柿園地（約150カ所）の評価を完了。「次の世代に残すべき園地」の割合は全柿園地の約80%。
- 部会員に改植の必要性について講習会等を通じて意識醸成。改植は100a（R6～R7 累積）で実施され、巡回指導により初期生育を良好にするための施肥、灌水、雑草管理の改善。また、自家苗生産の栽培指導を行い、約200本（50a分）の苗木を生産。
- 柿園地の生産性改善、および多様な担い手の確保の必要性について、生産者、関係機関で共通認識を有し、連携して担い手確保のための取組を実施。
- 高齢でリタイアした生産者の園地管理、定年退職者の新規参入、防除オペレーターの確保等、新たに産地の柿づくりに参画する人材が増加（新規部会員2名）。



園地状況調査



補植改植(赤丸内は苗木)



休日講習会(未経験者対象)

普及活動のポイント

- 全柿園地を対象とした園地調査の実施により園地の実情が明らかとなり、今後の産地を考えていく上での貴重な情報が得られた。
- 小規模経営がほとんどで、一挙更新による改植の実施には難色を示されたことから、果実生産を継続しながら園地の若返りを図る「補植改植」を提案した。
- 新たな担い手候補については、参加しやすい休日講習会の開催やニーズに応じた個別指導を行い、産地への定着を図った。

対象の変化

- 御所市は「御所柿」発祥の地とされる歴史ある柿産地であり、「規模は小さいが他産地に負けない美味しい柿づくり」を次世代へ継承していきたいという気運が高まった。

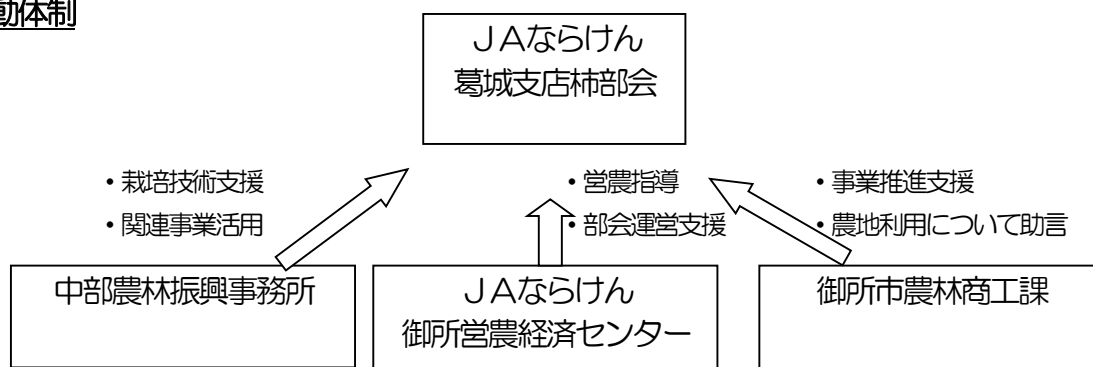
対象者からのコメント

- 園地調査により産地全体の細かい状況がよくわかった。今後、重点管理する園地の絞り込みをしていきたい。新たな担い手は少しずつ増えつつあり、産地への定着に向けて引き続き協力をお願いしたい（柿部会長）。

これからの活動ビジョン

- 園地調査で得られた情報を「見える化（樹園地マップの作成）」し、産地の将来を考えるための検討資料とする。
- 補植改植による老木からの世代交代を促進するため、適切な栽培管理を重点指導する。
- 柿部会及び関係機関と連携し、多様な担い手（候補）の産地への定着を図る。

活動体制



用語解説

改植：生産量や品質が低下した老木を伐採し、新たに苗木を植え付けること

一挙更新：園地の老木をすべて伐採・抜根し、苗木を植えること。苗木が生長するまでの数年間は収益が得られない。

補植改植：既存の老木の収穫を続けながら、老木近くの空きスペースに苗木を植え付けること。苗木の生長に伴い、老木を縮伐（大きな枝を切る）していく。

中部農林振興事務所農業振興課
担当：農産物ブランド推進係 藤田
担い手・農地マネジメント係 北岡
リーディング品目支援事業